

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年4月26日(2012.4.26)

【公表番号】特表2011-525477(P2011-525477A)

【公表日】平成23年9月22日(2011.9.22)

【年通号数】公開・登録公報2011-038

【出願番号】特願2010-549861(P2010-549861)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

A 6 1 K 39/39 (2006.01)

A 6 1 K 47/30 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/00 G

A 6 1 K 39/00 H

A 6 1 P 37/04

A 6 1 K 39/39

A 6 1 K 47/30

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月2日(2012.3.2)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

対象に投与するためのワクチン組成物であって、

抗原とカップリングした複数の粒子を含み、その際、各粒子は予め定めたアスペクト比で作製され、ワクチン組成物はこの予め定めたアスペクト比と相関する免疫原性を有する、ワクチン粒子組成物。

【請求項2】

粒子がマイクロメートルサイズの粒子であり、その際、免疫原性が予め定めたアスペクト比と正の相関を示す、請求項1に記載のワクチン組成物。

【請求項3】

粒子がナノメートルサイズの粒子であり、その際、免疫原性が予め定めたアスペクト比と負の相関を示す、請求項1に記載のワクチン組成物。

【請求項4】

予め定めたアスペクト比が約1:1である、請求項1に記載のワクチン組成物。

【請求項5】

予め定めたアスペクト比が少なくとも約3:1である、請求項1に記載のワクチン組成物。

【請求項6】

予め定めたアスペクト比が少なくとも約10:1である、請求項1に記載のワクチン組成物。

【請求項7】

粒子がさらに免疫刺激作用物とカップリングしている、請求項1に記載のワクチン組成物。

【請求項 8】

少なくとも 1 種類の免疫刺激作用物および抗原が粒子に非分解性リンカーによりカップリングしている、請求項 7 に記載のワクチン組成物。

【請求項 9】

少なくとも 1 種類の免疫刺激作用物および抗原が粒子に分解性リンカーによりカップリングしている、請求項 7 に記載のワクチン組成物。

【請求項 10】

免疫刺激作用物が抗原から物理的に分離されている、請求項 7 に記載のワクチン組成物。

【請求項 11】

粒子が種々の量の抗原および免疫刺激作用物を持続放出するように構築されている、請求項 7 に記載のワクチン組成物。

【請求項 12】

粒子が種々の量の抗原を持続放出するように構築されている、請求項 1 に記載のワクチン組成物。

【請求項 13】

粒子が予め定めた速度で、および／または予め定めた環境条件に応答して分解するように構築されている、請求項 1 に記載のワクチン組成物。

【請求項 14】

粒子が 1 回量のワクチン組成物中に初回抗原刺激能および追加抗原刺激能の両方を備えるように構築されている、請求項 1 に記載のワクチン組成物。

【請求項 15】

対象に投与する免疫刺激作用物の免疫原性を低下させる方法であって、

免疫刺激作用物を対象に投与する前に、免疫刺激作用物を非分解性リンカーにより粒子にカップリングさせることを含む方法。

【請求項 16】

複数の実質的に同じサイズおよび形状の粒子；その際、粒子はカチオン性 P L G A 組成物を含む；ならびに

それらの粒子の表面に吸着した抗原を含む、ワクチン組成物。

【請求項 17】

抗原が H A タンパク質である、請求項 1 6 に記載のワクチン組成物。

【請求項 18】

実質的に、複数の粒子の各粒子が約 4 : 1 のアスペクト比を有する、請求項 1 6 に記載のワクチン組成物。

【請求項 19】

実質的に、複数の粒子の各粒子が約 2 0 0 ナノメートル未満の第 1 寸法および約 2 0 0 ナノメートルより大きい第 2 寸法を有する、請求項 1 6 に記載のワクチン組成物。

【請求項 20】

実質的に、複数の粒子の各粒子が約 8 0 ナノメートルの第 1 寸法および約 2 5 0 ナノメートルより大きい第 2 寸法を有する、請求項 1 6 に記載のワクチン組成物。